

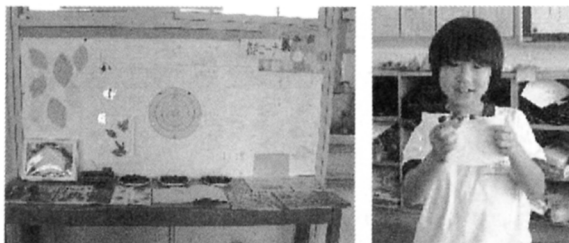
活動計画を立てた。

手立て① 「自然との出会わせ方の工夫」

最初に、Y子の「廃品回収の手伝いをしている途中、どんぐり山の近くで栗をたくさん拾った。どんぐりは1つしか落ちてなかった。」という内容の作文を紹介し、「どんぐりはこれから落ちるのかな。」と問いかけると、「去年のだったら、皮がむけてるはず。ぼくが去年拾ったどんぐりは引き出しでそうなって（皮がむけて）たもの。」などの反応があり、どんぐり山へ確かめに行きたい気持ちが生まれた。

10月に入ってから、秋コーナーを設け、気付いた秋を自由に紹介してきた。その中から、自分の見つけた身近な秋を発表し合ったところ、特に、マラソン大会のとき、村の体育館の近くで拾ったどんぐりに話題が集中し、家で作ったどんぐり人形を紹介した児童もいた。

〈資料1〉 「あきコーナー」



手立て② 「児童一人一人の思いをとらえる工夫」

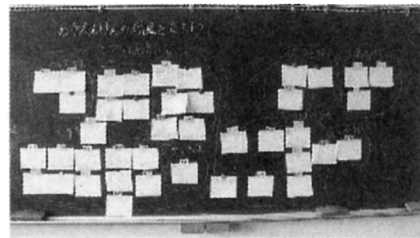
北山の秋への興味・関心が高まり、全員が、カードに自分のしたいことを1枚以上書くことができた。書いた児童から順に黒板に貼り、最後にみんなでカードを分類・整理した。その内容は、次の通りである。

- ・どんぐり人形
- ・どんぐりのやじろべえ
- ・どんぐりごま
- ・どんぐりだんご
- ・どんぐりのネックレス
- ・くりひろい
- ・落ち葉で何か作る
- ・リース
- ・まとあて

〈資料2〉 「自分のカードを貼る児童」



「整理されたカード」



こうしてできた活動計画から3つのグループに分かれ探検に出かけることになった。

探検場所は、どのグループも、したいこと材料が全部ありそうな「どんぐり山」に決まった。

〔検証授業2〕

探検活動を行った後、1年生を招待して、見つけた北山の秋を発表する会「きた山あきワールド」（名前も自分たちで決めた。）を行うことになった。探検で集めた材料をもとに、作る活動に没頭しているグループ、足りない材料を集めにまたどんぐり山へ出かけるグループ。休み時間は外遊びが多く、帰宅後はテレビゲームに夢中だった男子のグループが、昼休みもどんぐり人形作りを楽しんでいた。活動を続けるうちに児童の思いはどんどんふくらみ、お店を開きたいということになった。招待する人も、1年生だけでなく、先生方にも来てほしいということになり、教師の意図していた発表会とは違う「きた山あきワールド」となった。

「きた山あきワールド」は、児童の進行で行い、始めの言葉のあと、1年生が音楽の授業で歌っている「たきび」をみんなで歌って、見つ